



静岡県浮島ヶ原の鳥類相の変遷

二木務*

日本野鳥の会会員、〒410-0035 静岡県沼津市山王台 12-16.

静岡県の沼津市と富士市にまたがる通称「浮島ヶ原」(以下「浮島ヶ原」という.)は野鳥が豊富な湿地帯である。

南北約 2 km., 東西約 20km (35° 07′ –35° 09′ N, 138° 43′ –138° 47′ E) と広大で、昭和の初めごろまでは各所に沼があり、ヨシの原野が広がっていたものの、戦後は間断なく埋め立て排水事業が実施され、現在ではほとんどが乾田化している(静岡県農地森林部自然保護課 1987)。湿地の面影を残すのはわずかに残ったヨシ原と縦横に走る中小の河川だけである。

筆者はこの地をフィールドとして約 30 年間、野鳥の観察・撮影を続け、さらに知人の協力を得て観察情報や標識調査の記録に基づいて浮島ヶ原の鳥類リストの作成を続けてきた。このリストの中には山階鳥類研究所が所蔵する標本についても出現したことがある種として取り扱ったものもあり(静岡の鳥編集委員会 2020)、また、古い文献に記載された種(清棲 1978)も取り上げてある。

このようにして記録された浮島ヶ原の鳥類は 2020 年 12 月 31 日までで 20 目 54 科 238 種となっている。

調査の方法

2001 年から 2020 年まで出現種のデータを知人から提供してもらい、筆者自身の記録とを合わせ、暦年ごとの鳥類の出現状況をまとめ

てきた(事情により 2013 年はデータがない)。種の同定では双眼鏡・望遠鏡を主とし、可能な場合は写真撮影も行った。さらには、標識調査のデータも調査者から提供していただいた。

調査結果と考察

鳥類出現状況の調査結果は図のとおりである。最初の年である 2001 年の 118 種を便宜的に基準とすると、翌年以降おおむね減少傾向となり、2006 年に 82 種と最低を記録した。しかし、その後は増加傾向に転じ、2018 年には 146 種と、最多を記録した。なお、その後は再び減少傾向となっている(図 1)。

ここでは出現数の増減の理由を考察するため、調査の開始時期である 2001 年、最低を記録した 2006 年、最高を記録した 2018 年及び直近の 2020 年(125 種)について科ごとの出現種数を表 1 に示し比較した。表側はこれまでに浮島ヶ原で記録されたことがある科を示し、表頭は暦年を示している(表 1)。

表 1 で見ると、全体の確認種数に影響を与えているのはカモ科、サギ科、チドリ科及びシギ科である。このため各科ごとの年次別確認種の状況を表 2 から 4 にまとめて分析した。いずれの表も表頭は年次、表側は浮島ヶ原でこれまでに記録されたことのある種を示している。

カモ科(表 2)ではオカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、

2021 年 4 月 14 日受理

キーワード: 静岡県浮島ヶ原, 確認種数, 鳥類相の変遷

*: toritomo@ymail.plala.or.jp

オナガガモ及びコガモが毎年確認されているほか、マガンが2005年以降、オシドリが2010年以降、確認できた年が多くなっている。さらに、アメリカヒドリが2018年以降、トモエガモが2017年以降、スズガモが2015年以降、それぞれ毎年、確認されている。

カモ科の確認種数の最大は2017年の19種で、次が2018、2019年の17種であった。カモ科の確認種数は概ね拡大傾向である。これは2005年に浮島ヶ原が全面的に銃猟禁止となり、カモ科の個体数が大幅に増加した（大和瀬 私信）ことによって他の種を誘引したと考えるのが妥当である。群れが大きくなるとそれに含まれる種数が増えるという現象はカモメ科など群性の強い鳥によくみられることである。

サギ科（表3）ではゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ及びコサギは毎年確認されている。ヨシゴイはかつて繁殖コロニーがあったが、ヨシ原の大規模な埋め立てにより2002年を最後に繁殖は確認できていない。出現年次は少なくないが、1個体が一時的に観察されるのみである。ササゴイも同様に2002年を最後に繁殖が確認できていない。これは、繁殖コロニーがあった場所に富士市浮島ヶ原自然公園が造成されたことにより、ササゴイのコロニーが失われたためである。その後、散発的に確認されているが、ヨシゴイ同様、1個体が一時的に滞在するのみである。

サギ科では毎年確認されている6種は安定しているが、他の種は不安定な出現状況であり、確認種数の増減は多分に偶発的なものである。

次にチドリ科及びシギ科（表4）であるが、確認種数は2006年の13種を最低として、以後は概して増加傾向である。最高は2018年の28種なので、浮島ヶ原全体の鳥類確認種数と連動していることは確実である。

チドリ科及びシギ科の中でタゲリ、ケリ、ム

ナグロ、オオジシギ、チュウシャクシギといった草原性の種は毎年確認されている。浮島ヶ原で乾田化が進んでもこれらの種にはあまり関係がないようである。逆にシロチドリ、メダイチドリ、オオソリハシシギといった種は期間の後半には見られなくなってきており、乾田化の影響が出ている可能性は排除できない。

対して確認頻度が期間の後半に高くなっているのはチュウジシギ、オグロシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、ヒバリシギ、ウズラシギ、アカエリヒレアシシギといったところで、チュウジシギを除けば4月中旬から5月上旬の田植え前後の水田や春から秋にかけての湛水休耕田を利用する種である。浮島ヶ原では近年、早生種のイネの栽培が拡大してきており、田植え時期が従来の5月中下旬から4月中下旬ないし5月上旬に早まりつつある。こうしてチドリ科及びシギ科の春の渡り時期と田植え時期が重なるようになって、代掻き後や田植え直後の水田を春の渡りのシギ科・チドリ科が利用しやすい環境が拡大している。

一方で、田植え前から収穫時期ごろまで年によって作られる湛水休耕田が秋の渡りに果たす役割にも言及しておかなければならない。浮島ヶ原では、水田1枚あるいはその半分といった規模の湛水休耕田が出現する年がある。乾田化が進む中、このような環境は水辺の鳥にとって好適な場所となり、特に秋の渡りのチドリ科及びシギ科が個体数は少ないものの渡来することになる。湛水休耕田は有る年と無い年があるので、チドリ科及びシギ科の出現種数の多寡は湛水休耕田の有無に依存することになる。年間最多の28種を確認できた2018年や27種の2017年は湛水休耕田があった年である。

チドリ科及びシギ科で特徴的なのは、イカルチドリ、ホウロクシギ、ツルシギ、アカアシシギ等、出現状況がランダムな種が多いことであ

る。これらの種が浮島ヶ原ではもともと個体数が少ない（ほとんどが1種につき1個体から2個体）ことから、種の出現頻度が偶発性に左右されることが理由と考えられる。

謝辞

貴重なデータを提供してくださった江川隆昭，大石忠秋，大和瀬泰，加藤勝久，加藤紀美子，神谷芳郎及び渡辺修治の各氏には心からお礼申し上げます。また，本稿を書くに当たって背中を押してくださった古南幸弘氏にも謝意を表します。さらに，原稿を読んで適切なアドバイスをしていただいた山本裕氏にも深甚なる謝意を表します。

データファイルについて

本稿に関するデータファイルをオンラインで見ることができる。<<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/dl/strix38/>>

オンライン資料1. 静岡県浮島ヶ原で観察された鳥類（2001～2020）。

引用文献

- 清棲幸保.1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
 静岡県農地森林部自然保護課. 1987. ふるさとの自然 東部編. 静岡県, 静岡.
 静岡の鳥編集委員会. 2020. 静岡県の鳥類第3版. 静岡の鳥編集委員会, 静岡.
 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 兵庫.

表 1. 科ごとの年次別確認種数.

Table 1. Number of species by year for each family.

目	科	2001	2006	2018	2020
キジ目 Galliformes	キジ科 Phasianidae	1	1	1	1
カモ目 Anseriformes	カモ科 Anatidae	13	11	17	16
カイツブリ目 Podicipediformes	カイツブリ科 Podicipedidae	1	1	3	3
ハト目 Columbiformes	ハト科 Columbidae	1	1	1	1
ミズナギドリ目 Procellariiformes	ミズナギドリ科 Procellariidae	0	0	1	0
コウノトリ目 Ciconiiformes	コウノトリ科 Ciconiidae	0	0	0	0
カツオドリ目 Sulifomes	カツオドリ科 Sulidae	0	0	0	0
	ウ科 Phalacrocoracidae	1	1	1	1
ペリカン目 Pelecaniformes	サギ科 Ardeidae	8	6	10	7
	トキ科 Threskiornithidae	0	0	0	0
ツル目 Gruiformes	ツル科 Gruidae	0	0	1	0
	クイナ科 Rallidae	2	2	4	5
カッコウ目 Cuculiformes	カッコウ科 Cuculidae	0	0	3	0
ヨタカ目 Caprimulgiformes	ヨタカ科 Caprimulgidae	0	0	0	0
アマツバメ目 Apodiformes	アマツバメ科 Apodidae	2	1	2	2
チドリ目 Charadriiformes	チドリ科 Charadriidae	6	4	6	5
	セイタカシギ科 Recurvirostridae	1	1	1	1
	シギ科 Scolopacidae	15	9	22	19
	レンカク科 Jacanidae	0	0	0	0
	タマシギ科 Rostratulidae	1	1	1	1
	ツバメチドリ科 Glareolidae	0	1	1	1
	カモメ科 Laridae	3	0	2	4
	トウゾクカモメ科 Stercorariidae	0	0	0	0
タカ目 Accipitriformes	ミサゴ科 Pandionidae	1	0	1	1
	タカ科 Accipitridae	6	4	6	5
フクロウ目 Strigiformes	フクロウ科 Strigidae	2	0	1	0
サイチョウ目 Bucerotiformes	ヤツガシラ科 Upupidae	1	0	1	0
ブッポウソウ目 Coraciiformes	カワセミ科 Alcedinidae	1	1	1	1
キツツキ目 Piciformes	キツツキ科 Picidae	1	0	3	2
ハヤブサ目 Falconiformes	ハヤブサ科 Falconidae	3	3	3	3
スズメ目 Passeriformes	カササギヒタキ科 Monarchidae	0	0	0	0
	モズ科 Laniidae	1	1	1	1
	カラス科 Corvidae	4	4	4	5
	ツリスガラ科 Remizidae	1	0	0	0
	シジュウカラ科 Paridae	1	1	1	1
	ヒバリ科 Alaudidae	1	1	1	1
	ツバメ科 Hirundinidae	4	3	4	4
	ヒヨドリ科 Pycnonotidae	1	1	1	1
	ウグイス科 Cettiidae	1	1	1	1
	エナガ科 Aegithalidae	1	0	1	0
	ムシクイ科 Pylloscopidae	0	0	2	0
	メジロ科 Zosteropidae	1	1	1	1
	センニュウ科 Locustellidae	0	0	1	1
	ヨシキリ科 Acrocephalidae	2	2	2	1

表 1. 続き
Cont.

目	科	2001	2006	2018	2020
スズメ目 Passerifomees	セッカ科 Cisticolidae	1	1	1	1
	レンジャク科 Bombycillidae	0	0	0	0
	ミソサザイ科 Troglodytidae	0	0	1	0
	ムクドリ科 Sturnidae	1	1	2	2
	ヒタキ科 Muscicapidae	7	4	7	8
	イワヒバリ科 Purnellidae	0	0	0	0
	スズメ科 Passeridae	2	2	2	2
	セキレイ科 Motacillidae	7	4	6	5
	アトリ科 Fringillidae	4	2	5	5
	ホオジロ科 Emberizidae	8	5	9	6
計		118	82	146	125

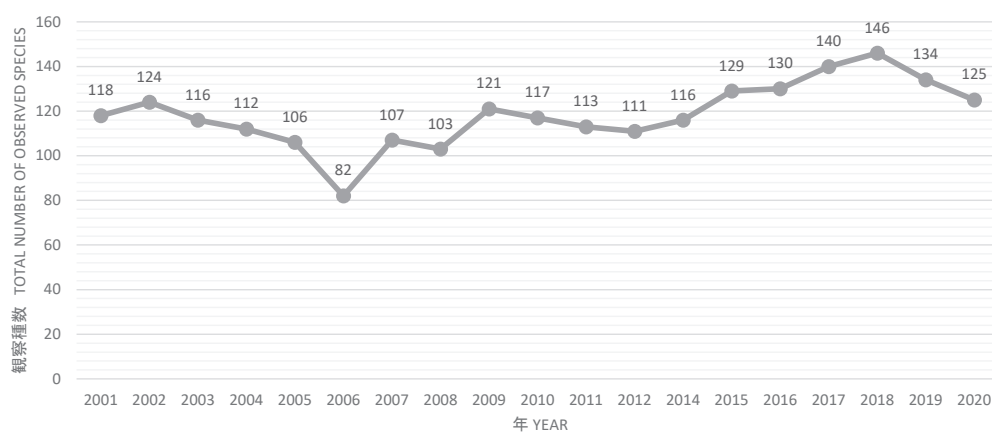


図 1. 浮島ヶ原鳥類確認種数経年変化.

Fig.1. Annual change of total number of observed species in a year at Ukishimagahara.

表2．カモ科の年次別確認状況（○印が確認種）
Table 2. Observations of ANATIDAE each year. Open circles show appearance.

種 Species/ 年次 Year	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	14	15	16	17	18	19	20
ヒシクイ <i>Anser fabaris</i>																	○		
マガン <i>A. albifrons</i>	○				○		○	○	○		○		○		○		○		
カリガネ <i>Aerythropus</i>																			
コハクチョウ <i>Cygnus columbianus</i>	○					○		○								○			
オオハクチョウ <i>C. cygnus</i>																			
オシドリ <i>Aix galericulata</i>		○	○				○			○		○	○	○	○	○	○	○	○
オカヨシガモ <i>Anas strepera</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨシガモ <i>A. falcata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒドリガモ <i>A. penelope</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アメリカヒドリ <i>A. americana</i>																	○		
マガモ <i>A. platyrhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カルガモ <i>A. zonorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシビロガモ <i>A. clypeata</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オナガガモ <i>A. acuta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シマアジ <i>A. querquedula</i>			○		○			○		○	○		○		○	○	○	○	○
トモエガモ <i>A. formosa</i>					○					○						○	○	○	○
コガモ <i>A. crecca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホシハジロ <i>Aythya ferina</i>	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キンクロハジロ <i>A. fuligula</i>	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スズガモ <i>A. marila</i>				○										○	○	○			
ホオジロガモ <i>Bucephala clangula</i>				○						○	○	○	○	○	○	○			○
ミコアイサ <i>Mergellus albellus</i>		○							○		○		○	○	○	○			
カワアイサ <i>Mergus merganser</i>	○							○	○										
確認種数	13	10	12	12	12	11	12	12	14	14	14	12	15	16	16	19	17	17	16

表 3. サギ科の年次別確認状況 (○印が確認種)
Table 3. Observations of ARDEIDAE each year. Open circles show appearance.

種 Species/ 年次 Year	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	14	15	16	17	18	19	20
サンカノゴイ <i>Botaurus stellaris</i>																			
ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i>																			
オオヨシゴイ <i>I. eurhynchus</i>																			
ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax</i>																			
ササゴイ <i>Butorides striata</i>																			
アカガシラサギ <i>Ardeola bacchus</i>																			
アマサギ <i>Bubulcus ibis</i>																			
アオサギ <i>Aldea cinerea</i>																			
ムラサキサギ <i>A. purpurea</i>																			
ダイサギ <i>A. alba</i>																			
チュウサギ <i>Egretta intermedia</i>																			
コサギ <i>E. garzetta</i>																			
クロサギ <i>E. sacra</i>																			
確認種数	8	8	8	8	8	8	8	7	8	6	7	6	7	8	8	9	10	8	7

表 4. 続き
Cont.

種 Species/ 年次 Year	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	14	15	16	17	18	19	20
ソリハシギ <i>Xenus cinereus</i>		○	○	○	○						○		○	○	○	○	○	○	○
イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キヨウジヨシギ <i>Arenaria interpres</i>	○	○		○				○	○						○	○	○		
オハシギ <i>Calidris tenuirostris</i>			○																
トウネン <i>C. ruficollis</i>		○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヨーロッパトウネン <i>C. minuta</i>																○			
オジロトウネン <i>C. temminckii</i>			○										○	○		○			
ヒバリシギ <i>C. subminuta</i>	○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アメリカウズラシギ <i>C. melanotos</i>																			
ウズラシギ <i>C. acuminata</i>			○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サルハマシギ <i>C. ferruginea</i>			○	○								○				○	○	○	○
ハマシギ <i>C. alpina</i>	○	○	○	○					○			○		○			○	○	○
キリアイ <i>Limicola falcinellus</i>				○										○			○	○	○
エリマキシギ <i>Philomachus pugnax</i>	○	○	○	○	○		○	○	○						○		○	○	○
アカエリヒレアシシギ <i>Phalaropus lobatus</i>														○		○	○	○	○
確認種数	21	23	22	21	20	13	18	15	23	19	18	18	15	27	24	27	28	26	24

The avifauna change of Ukishimagahara, Shizuoka Prefecture, Japan

Tsutomu Futagi*

San-noudai, 12-6, Numazu, Shizuoka, 410-0035, Japan

Observation data of birds collected for 20 years from 2001 to 2020 at Ukishimagahara ($35^{\circ} 07' - 35^{\circ} 09' \text{ N}$, $138^{\circ} 43' - 138^{\circ} 47' \text{ E}$) in Shizuoka Prefecture, Japan.

Keywords: Avifauna, long-term study, Ukishimagahara,

Suppliment Data1. Bird data observed on Ukishimagahara during from 2001 to 2020.
<<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/dl/strix38/>>

*: toritomo@ymail.plala.or.jp